

静岡県

磐田市

市民とともに築く 多文化共生のまちづくり



磐田市共生社会推進課

磐田市の概要

磐田市は、静岡県西部の天竜川東岸に位置し、二〇〇五年四月に、さまざまな面で深い結びつきを持った磐田市・福田町・竜洋町・豊田町・豊岡村が合併して誕生した面積一六四km²、人口一七万五〇〇〇人の都市です。海、山、川など豊かな自然に恵まれ、奈良時代には遠江国分寺や国府が置かれるなど、歴史や文化の積み重ねられたまちでもあります。

江戸時代には、東海道五十三次見付宿として繁栄するなど、東西交通の要衝として発展してきました。近年では、JR東海道新幹線・東海道本線、国道一号、東名高速道路など交通の大動脈が横断し、産業面では、輸送用機械器具製造業などを中心に、県下第二位の工業出荷額を誇っています。

また、「Jリーグ」ジュビロ磐田」のホームタウンとして、全国に名前が知れわたるようになりました。

市民主体の国際交流

海外の都市とは、フィリピン・パンガシナン州ダグパン市と一九七五年に、またアメリカ・カリフォルニア州マウンテンビュー市と一九七六年に、姉妹都市提携を結び、今年提携三〇周年の記念イベントを開催します。両市とは、市民団体である磐田国際姉妹都市協会を中心に学生派遣などを通して交流を続けています。

また、同じく市民団体である磐田国際交流協会は、市町村合併に伴い新しい協会を設立し、それぞれの旧協会の活動を継承しながらも、情報ネットワーク部会・多文化共生部会・派遣受入部会・交流企画部会に分かれ、活発に活動を行っています。以前から交流のあった、オーストラリアやアメリカの各都市との中学生海外派遣・受入れについても、青少年に対する国際理解教育の推進として、協会員が積極的にかかわって進めています。

外国人市民との共生については、行政と協会が連携を図って取り組んでいます。協会では国際交流イベントや世界の文化体験講座などを通して、顔の見える仲間づくりを目指しています。現在三〇〇人を超える協会員が、それぞれ多忙な中、会長や副会長を中心に積極的に活動に携わっています。磐田市の国際交流を支えているのは、



↑大いに盛り上がった国際交流イベント

こうした市民団体や市民の熱意であり、行政でも積極的に支援していきたくと考えています。

多文化共生への取組み

冒頭、磐田市は県下第二位の工業都市であると述べましたが、輸送機械を中心とした工場が立地し、その多くが外国人労働者の受入先となっています。現在外国人登録者数は、九〇〇〇人を超え、二〇人に一人は外国人という状況であり、特に日系ブラジル人が約八割を占めているため、市役所内にポルトガル語の通訳を配置し、窓口での対応や行政文書などの翻訳をしています。また、ポルトガル語版のガイドブックや広報等を作成し、積極的な情報提供に努めています。

多文化交流センターの完成

三年前、外国人の子どもたちの状況を危惧した市民が集まり、協議を重ねながら、市民と行政との協働で「多文化交流子育て支援センター」を立ち上げました。開設当初は、外国人集住地区である県営住宅の集会場を



↑多文化交流センターの前に集合した子どもたち

利用し、主に小学生の宿題のサポートなど、学習支援を中心に運営をしてきました。熱い思いを持った市民スタッフが、子どもたちに熱心にかかわってくれているため、利用者も増加し、今年三月に待望の専用施設が完成しました。完成記念式典では、建物の出来上りを楽しみにしていた外国人の子どもたちが、詩の朗読や歌、ダンスを披露して、式典に華を添えてくれました。

この新施設は、「多文化交流センター」と名称を変え、一階の遊び場スペースと二階の学習室とを分けることにより、静かな環境で学習ができるようになりました。今までどおり、子どもを中心にした施設ではありませんが、広く市民にもかわっていただき、多文化交流の拠点としていきたいと考えています。

先日、地区自治会の主催により、施設の見学を兼ねて、役員と外国人との多文化共生意見交換会が開催されました。大変好評であり、次の開催を望む声も聞かれました。このような利用も含め、このセンターが地域に根差した施設となるよう願っています。

外国人情報窓口の開設

今年四月、市役所外国人登録コーナーの隣に、外国人のための情報窓口を開設しました。ここは、主に外国人転入者を対象に、生活に必要な情報やルールをお知らせするためのカウンターです。自治会やごみの分別など、五カ国語の冊子を使ってオリエン

テーションを行っていただきます。

ポルトガル語の通訳と日本人スタッフが常時、また火曜日の午後は、タガログ語と英語ができる

通訳も配置しています。国際交流協会へ運営を委託しているのは、行政情報以外にも幅広い内容を提供できるという理由からであり、転入者ばかりではなく多くの利用者があります。この窓口が、外国人への自立支援に大きな力を発揮してくれることと期待しています。

まとめ

増加し続ける外国人との共生には、市民や市民団体の理解と協力は不可欠です。その点、磐田市では、外国人集住地区の地区長をはじめ、多文化交流センターの市民スタッフや国際交流協会のメンバーなど、地域共生について前向きに捉え、積極的に取り組んでくれる多くの人材がいます。

今後は、ネットワークを広げ、さらに外国人市民の声も取り入れながら、多文化共生の実現を目指して、一歩ずつできることから進めていきたいと考えています。



↑4月に開設した外国人情報窓口

福岡県

お お む た

大牟田市



国際交流から国際協力へ

大牟田市企画部企画振興課

大牟田市は福岡県の最南端に位置し、豊かな自然と海産物の宝庫である有明海に面しています。人口は二〇〇六年四月現在、約一三万四〇〇〇人と福岡県で四番目の都市です。

大牟田市は三池炭鉱とともに発展してきたまちとして知られていますが、石炭が本格的に採掘され始めたのは江戸時代中ごろからです。明治になると団琢磨（三井財閥の最高指導者、団伊玖磨の祖父）が中心となり、石炭採掘がさらに本格化し、三池港の開発や石炭を中心とした化学コンビナートが形成されました。大正、昭和初期に化学、金属、電力の各工業分野にわたるコンビナートや機械、繊維、窯業の大規模な工場も操業を始めるなど、鉱業都市としての隆盛を誇り、わが国近代工業の発展に大きな役割を果たしました。

その一方で公害が生じ、市民、企業、行政の努力で克服するとともに公害防止の技術が蓄積され、一九九七年三池炭閉山後の新たな産業振興とダイオキシン類対策をはじめとする広域的な環境の保全を目的として、環境・リサイクル産業の創出による環境に優しい、美しい、住みよいまちづくりを推進し、循環型社会の実現に取り組んでいます。

友好都市交流 大同市

大同市は中国・山西省の北部に位置し、海拔約一〇〇〇mの高地、万里の長城には

含まれた人口三〇〇万人、面積一万四一五二km²山西省第二の都市です。西暦三九八年、北魏王朝時代には平城と呼ばれ、洛陽に遷都されるまでの約一〇〇年間都として当時の中国北方諸民族の政治、経済、文化の中心地として栄えた悠久の歴史を持つ都市です。

北魏王朝時代に彫られたユネスコ指定世界文化遺産「雲崗石窟」をはじめ数多くの歴史的遺跡が残されています。

大同市はまた石炭のまちです。石炭の埋蔵量は約三七六億tと推定され、北方の石炭の海と呼ばれています。工業は石炭工業を中心として電力、化学、冶金、医薬品、機械、建築材等の工業が発達しています。

一九七八年大牟田市内の事業所が大同市の炭鉱から採炭設備の輸出を受注し、これを契機に双方の炭鉱技術者の交流が始まりました。一九七九年当時の大牟田市長は、同じ炭都という共通点から友好交流を深めることで大同市を訪問しました。一九八一年一月一日、漢文大同市長をはじめとする大同市政府友好代表団を迎えて、友好都市締結に関する協議書を取り交わしました。

友好都市締結後、両市は文



↑大同市の炭鉱を視察する大牟田市友好代表団

化、教育、スポーツ、農業、市職員相互派遣、おおむた「大蛇山」と大同市「龍灯舞」の競演によるまつり文化交流、ワシントン条約の希少動物として登録されているレッサーパンダとリスザル、カンガルーとの動物交換などさまざまな面で交流を行ってきました。

姉妹都市交流 マスキーガン

マスキーガン郡は、アメリカカ・ミシガン州のミシガン湖東岸にあるミシガン半島西部に位置し、人口約一七万人、陸面積一四五〇km²のカウンティです。

一八二二年にここに交易地が建設されました。一九三七年に最初の製材所が開かれ、州の重要な製材業のまちとなりました。一八八七年ごろ全盛期になり、二〇世紀初期にマスキーガンの工業が急速に発展してきました。木材のまちとして繁栄した当時をしのばせるマスキーガン郡博物館があります。マスキーガン市は、人口約四万人、マスキーガン川がミシガン湖に注ぐ河口に位置しています。ミシガン湖東岸最大の湖港として船舶の出入りが多く、大型快速船がミルウォーキーまで運航され、自動車、エンジン、機械などの工業が発達しています。



↑日本の伝統文化茶道を体験するマスキーガン訪問団

す。

姉妹都市の締結は、マスキーガン市に立地している大牟田市内の企業の紹介により提携の運びとなりました。一九九四年一〇月、当時の大牟田市長を団長とした訪問団がマスキーガン市を訪問し、一〇月二五日大牟田市長ならびにマスキーガン市長およびマスキーガン郡理事会議長が、姉妹都市締結共同宣言書に署名しました。

姉妹都市の締結後、一九九六年五月にマスキーガン地域との友好親善を図る目的で行政、議会、民間団体等が中心となって、「大牟田・マスキーガン友好協会」が設立されました。大牟田とマスキーガンの訪問団相互訪問やホームステイ団の相互派遣、さらに文化交流使節団や高校生ジャズバンドによる音楽交流など、各分野にわたって着実に各種交流事業が実施され、民間主導の交流が図られてきました。

国際協力の取り組み

友好都市の中国・大同市は、中国一の出炭量を誇る石炭の産地であるとともに火力発電所や化学工場が稼働しており、大量の硫酸化物や降下煤塵等による大気



↑大同市で技術指導を行う大牟田市の環境保全専門家

汚染が大変深刻です。

近年、大牟田市はこれまでの公害克服の経験を生かして、都市環境保全、廃棄物処理分野の技術協力事業を進めています。その国際協力事業の一つは、JICA国際協力機構の「草の根技術協力事業」を活用して、大牟田市から毎年環境保全の専門家を大同市へ派遣し、大同市環境局所管の工場、施設、環境観測現場等での測定や環境問題セミナーの開催による大同市民の環境保全意識の啓発と向上、環境技術指導を行っています。また、大同市から環境保全研修員を受け入れて、行政、企業、国と県の環境研究機関等で研修を行います。大同市の環境保全人材育成に努めています。



↑大牟田市内企業で研修を受ける大同市の環境保全研究員

二〇〇六年は大牟田・大同両市友好都市締結二五周年を迎え、さまざまな記念事業を計画しています。本市は、二五周年を契機として友好都市間のさらなる友好発展を期待するとともに、今後也得意とする環境、緑化等各分野の技術やノウハウを最大限に生かしながら、国際協力を通して誇りを持つ魅力と特色ある地域づくりを進めています。